

暑い日が続いています。今年の梅雨はまさに、空梅雨でした。降るときは、どしゃ降り。まるで台風か、熱帯地方のスコールのようです。しとしとと降り続く雨が一昔前の梅雨のイメージでしたが全くの様変わりです。温帯性の気候がだんだんと亜熱帯性の気候に変化しているように思います。熱中症とは、真夏日に戸外で激しい運動をしていて起こるものばかりではなく、最近では夜間に自宅で熱中症にかかる高齢者が増えています。特に認知症のある方は、気温に応じて衣服を替えることができず、周囲が気をつけてあげなければ容易に熱中症になってしまいます。これは、乳幼児でも同じことです。昼間は 26℃ くらい、夜間は 28℃ くらいに室温を保ち、快適に暮らしましょう。水分補給と十分な睡眠をとることを心がけてこの夏を乗り切りましょう。さて、暑い季節の中の参議院選挙、日本のこれからの方向性を決める大事な選挙です。是非、投票に出かけてください。



[最近目立つ病気]

例年のごとく、手足口病とヘルパンギーナが乳幼児で目立ってきました。ここ 2～3 年、手足口病の病型が変化し、発疹の出方が変則的になってきました。治癒後に爪が剥がれる等の今までにみられない症状がみられたりしました。今年は流行初期は、教科書通りの手足口病でしたが、その後、水痘や単純ヘルペス感染症と見間違えるようなケースが増えています。

突然に高熱が出て、1～2 日で解熱する夏風邪がみられます。細菌性胃腸炎(食あたり)も散見されます。おたふくかぜのようで経過をみると違うものがあります。耳下腺が腫れますが片側のみで 2 日ほどで軽快します。抗体検査でもおたふくかぜは否定されます。繰り返し耳下腺が腫れる場合は、反復性耳下腺炎と診断します。咳が続く人も目立ちますが、アレルギーやエアコンが原因のことも多いようです。マイコプラズマ感染症もみられますが、以前ほど目立ちません。マイコプラズマ感染症の診断に抗原を検出する迅速検査が出来るようになりました。まだ保険適応はありませんが、今までよりも診断の精度は格段に向上しました。

[手足口病]

上述しましたように、手足口病の発疹が教科書的ではなくなっています。神戸市感染症発生動向調査によると、手足口病の患者さんからコクサッキー A6 ウィルスが検出されています。このウィルスは 2 年前にも検出されており、水痘と鑑別を要するような大きな水疱を形成し、治癒後に爪が剥がれるといった特徴的な症状を示すとのことです。

手足口病の診断に苦慮したことは、私が医師になって 33 年経ちますが、はじめてのことです。今年は注意しなければなりません。

[子宮頸がん予防ワクチンと CRPS]

子宮頸がん予防ワクチンと CRPS (複合性局所疼痛症候群: Complex Regional Pain Syndrome) との因果関係が問題となり、本年 6 月 14 日に厚生労働省は子宮頸がん予防ワクチン

を積極的に勧奨しないことにしました。これは、定期接種が中止されたものではありません。今までどおり、接種券を使って無料で接種できますが、保護者の同意書が必要になりました。

このワクチンは、世界では、これまでに約 1 億 5 千万回の接種がされており、他のワクチンに比べて副作用が多いという結果は出ていないようです。我が国では、これまでに約 800 万回の接種がされており、CRPS の疑い例が 5 例報告されています。ただし、5 例とも疑似例で確定診断には至っていません。厚生労働省の決定に影響を与えたケースは以下のような経過です。『14 才の女子中学生が 2011 年 9 月にサバックス 1 回目接種、11 月に 2 回目を左腕に接種、2 回目接種後、左腕の腫脹、疼痛、しびれあり。その他、左肩、左足、右腕、右足にも疼痛が間欠的に生じた。夜間には肩から肩甲骨、指先まで痛みが広がり、疼痛のため歩行困難となった。接種 7 日後に CRPS が疑われた。接種 1 ヶ月半でも症状の改善なし』

CRPS とは、米国では RSD (Reflex Sympathetic Dystrophy: 反射性交感神経性ジストロフィー) と言われています。この疾患の定義からは、ワクチン成分によって起こるものではなく、外傷・骨折・注射針等の刺激がきっかけで発症するものです。とすれば、他のワクチンでもみられているはずですが、今までは問題になっていませんでした。何故、我が国で子宮頸がん予防ワクチンに目立つのか、今後の調査が待たれます。因みに、子宮頸がんの疫学について、記しておきます。我が国における年間の患者数は約 9 千人、死亡者は約 2 千 5 百人です。そして、子宮頸がん予防ワクチンの効果は 50～70% です。



[ワクチン最新事情]

(1) 平成 25 年 4 月から、金沢市でも結核に対する BCG ワクチン接種

が個別接種となりました。生後 5～8 ヶ月が標準接種期間で生後 1 年まで可能です。

ヒブワクチン、小児用肺炎球菌ワクチン、HPV ワクチン(子宮頸がん予防ワクチン)の 3 種類が定期接種化されました。なお、厚生労働省は、世界保健機関(WHO)が推奨している水痘、おたふくかぜ、B 型肝炎、成人用肺炎球菌、ロタウイルスのワクチンも順次定期接種の対象として検討しています。

(2) 任意接種の水痘ワクチン、おたふくかぜワクチンについて、2 回接種が推奨されるようになりました。おたふくかぜについては 1 才に 1 回目 就学前に 2 回目、水痘については 1 才に 1 回目 3 ヶ月以上あけて 2 回目が標準です。

(3) 接種部位についてはワクチンによる大腿四頭筋拘縮症の出現はないとのことで、これまでの上腕接種部位に加え、大腿前外側部が推奨されています。2012 年度から医師用予防接種ガイドラインに記載されました。



☆大手町の夜間急病診療所(Tel:222-0099)では午後 7 時から 11 時まで、小児科と内科の診療を年中無休で行っています。加畑の担当は 7/11・8/11・9/5・9/26 の予定です。また、7/21 は当番医です。

☆すこやか検診は 10 月末までです。早めに受診しましょう。

☆金沢市では幼児期の任意接種のワクチン(水痘・おたふくかぜ・インフルエンザ)についての助成金制度を行っています。詳細は受付でお尋ね下さい。

☆世界の宝「憲法 9 条」を次の世代に贈りましょう。

